

# 駒苦 苦中央破り4強

## 鷓川 猛攻及ばず初戦で涙

夏の高校野球  
白球を追って

(6日・札幌山)

夏の高校野球南北海道大会は5日、1回戦2試合と準々決勝1試合を行った。東胆振・日高勢は1回戦で鷓川が立命館慶祥(札幌支

部)との打撃戦の末、9-12で敗退した。準々決勝の苦小牧勢対決は駒大苦小牧が3-2で苦中央を下した。

(後藤真)

▽1回戦  
立命館慶祥 12 9 鷓川  
▽準々決勝  
駒大苦小牧 3 2 苦中央



「立命館慶祥―鷓川」七回裏鷓川の死三塁、山崎の右中間を破る三塁打で7-6と勝ち越す(小川正成撮影)

## 「諦めない」持ち味発揮 鷓川

▼「エース根本の球、力があった」 苦中央の捕手、笹原(2年) 写真にはエースの根本(3年)をリードして、15奪三振、失点3



「抑えた。「低めを心掛けた。根本さんの球は今まで以上に力があった」と振り返る。

白老中出身。1年の秋季支部予選から、プロも注目する根本とバッテリーを組み「最初は球を止めるだけで精いっぱいだった」。部活後は一緒に帰宅してコミュニケーションを取り、リードも磨いて信頼関係を築いた。「来年は先輩たちの分まで頑張りたい」と約束した。

「まだまだまだ!」「いけるぞ、ここからだ」。6点を奪われ、5点差とされた直後の八回裏、攻撃前に鷓川ナインがけきを飛ばし合った。常に心掛けてきた諦めない野球。九回にも3連打などで2点を返し、阿部主将(3年)は「持ち味は出せた」とすっきりした表情で振り返った。

エース稲葉(3年)が初回到に4失点する苦しい展開だったが、その稲葉が三回に3点本塁打を放つなど食い下がった。同点で迎えた七回、死三塁には「とにかくつなぐことだけを考えた」と打席に入った山崎(2年)が右中間を破る三塁打を放ち、一時は勝ち越した。つなぎの意識はチーム全体

で5犠打という結果にも表れた。3年生たちは2年前の9月、胆振東部地震で被災した。野球部寮は半壊し、今も仮設寮で生活。「被災を乗り越え、団結力が高まった」と鬼海監督は成長を実感する。新型コロナウイルスで目標だった甲子園は中止になったが、ナインは地震にコロナ。誰も経験できないことを経験した」と気持ちを切り替え、北海道大会に乗り込んだ。被災後は全力プレーでむかわ町民を元気づけることも目指してきた。山崎は「思いは試合で伝えることができました」と胸を張っていた。

(後藤真)